

22
南北の王
聖徒伝 133

「偽りの繁栄 滅びからの脱却を」

列王記 II 14:23~15:7 歴代誌 II 26章 ウジヤとヤロブアム

アウトライン

0. イントロダクション

I. 北13代・ヤロブアム2世

列Ⅱ14章23～39節

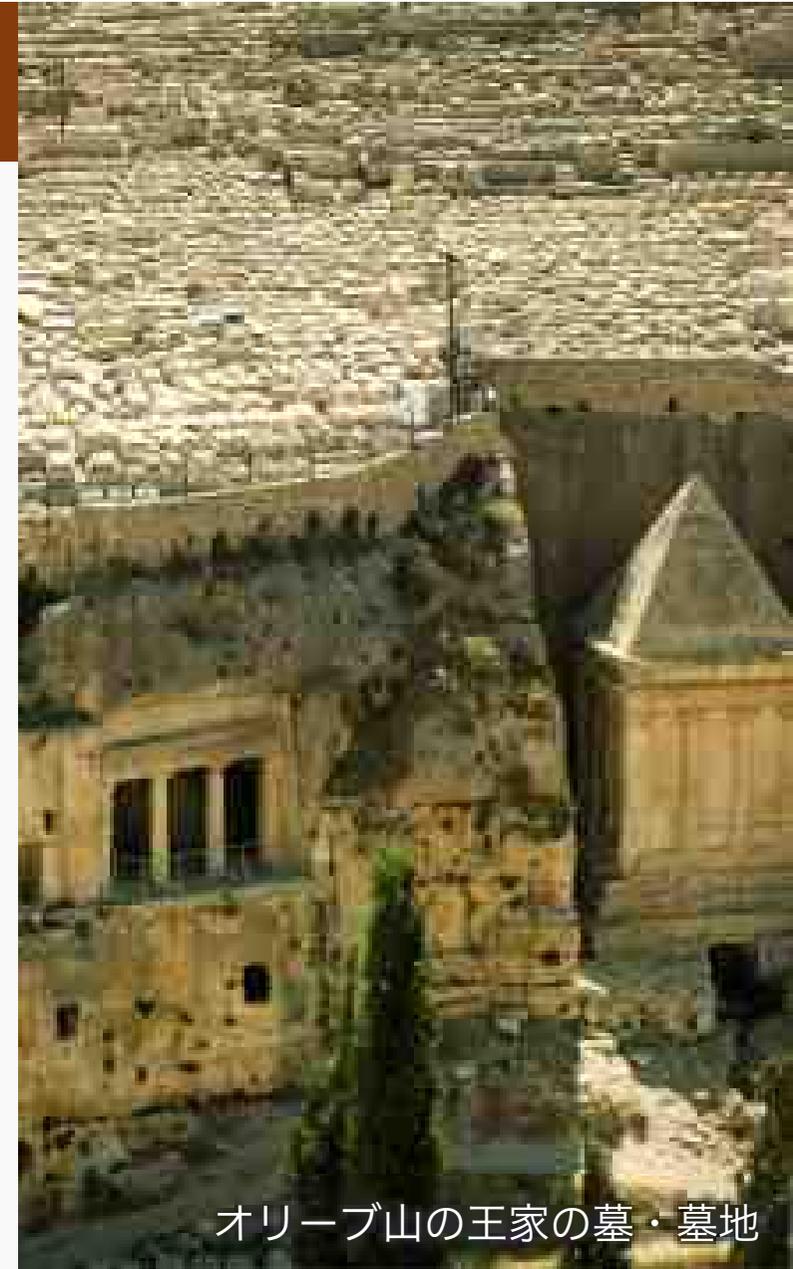
Ⅱ. 南10代・ウジヤ(アザルヤ)

列Ⅱ15章1～7節 歴Ⅱ26章

Ⅲ. まとめと適用

この道はいつか来た道？

繰り返される罪を断とう



オリーブ山の王家の墓・墓地



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

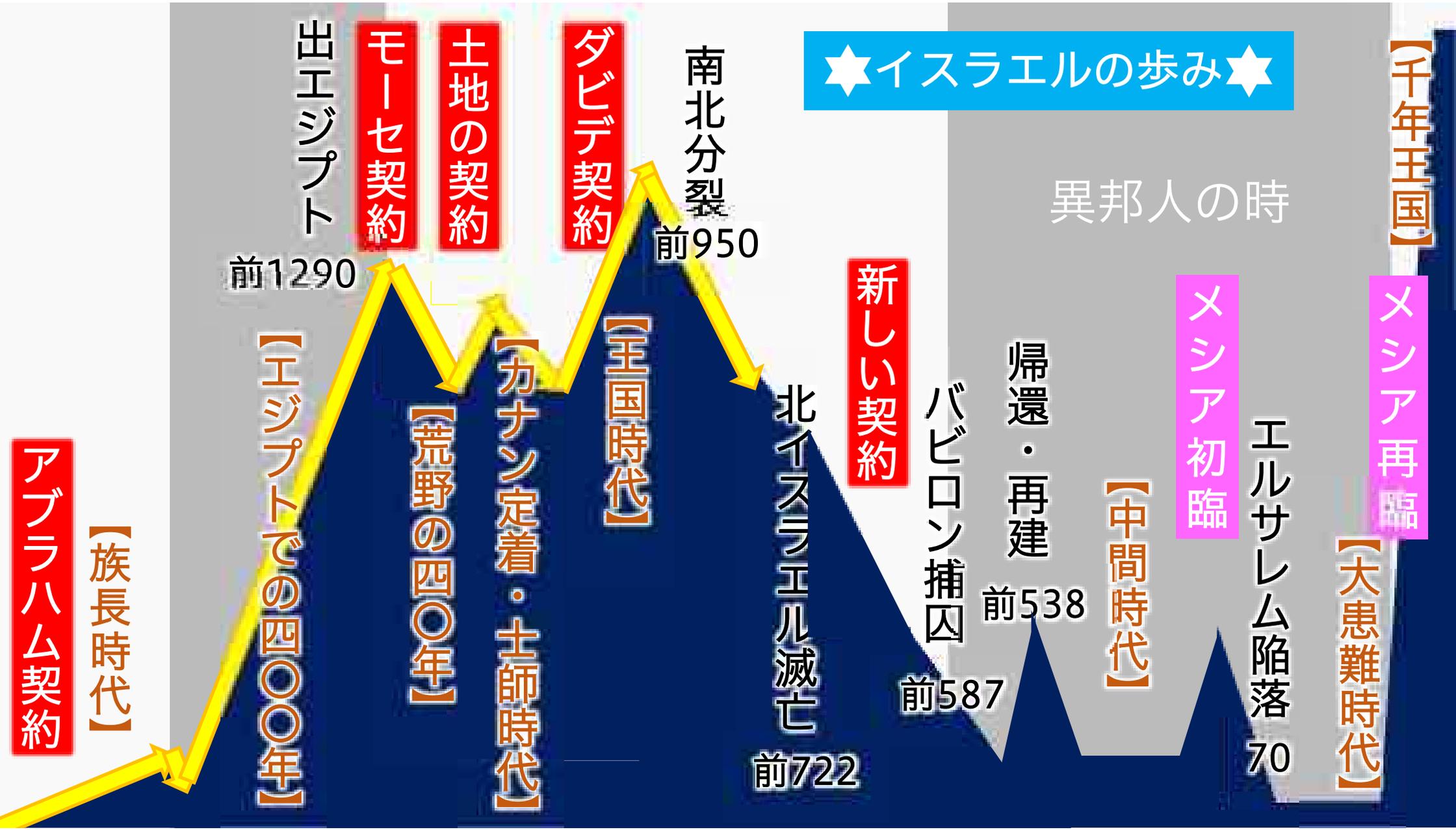
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★

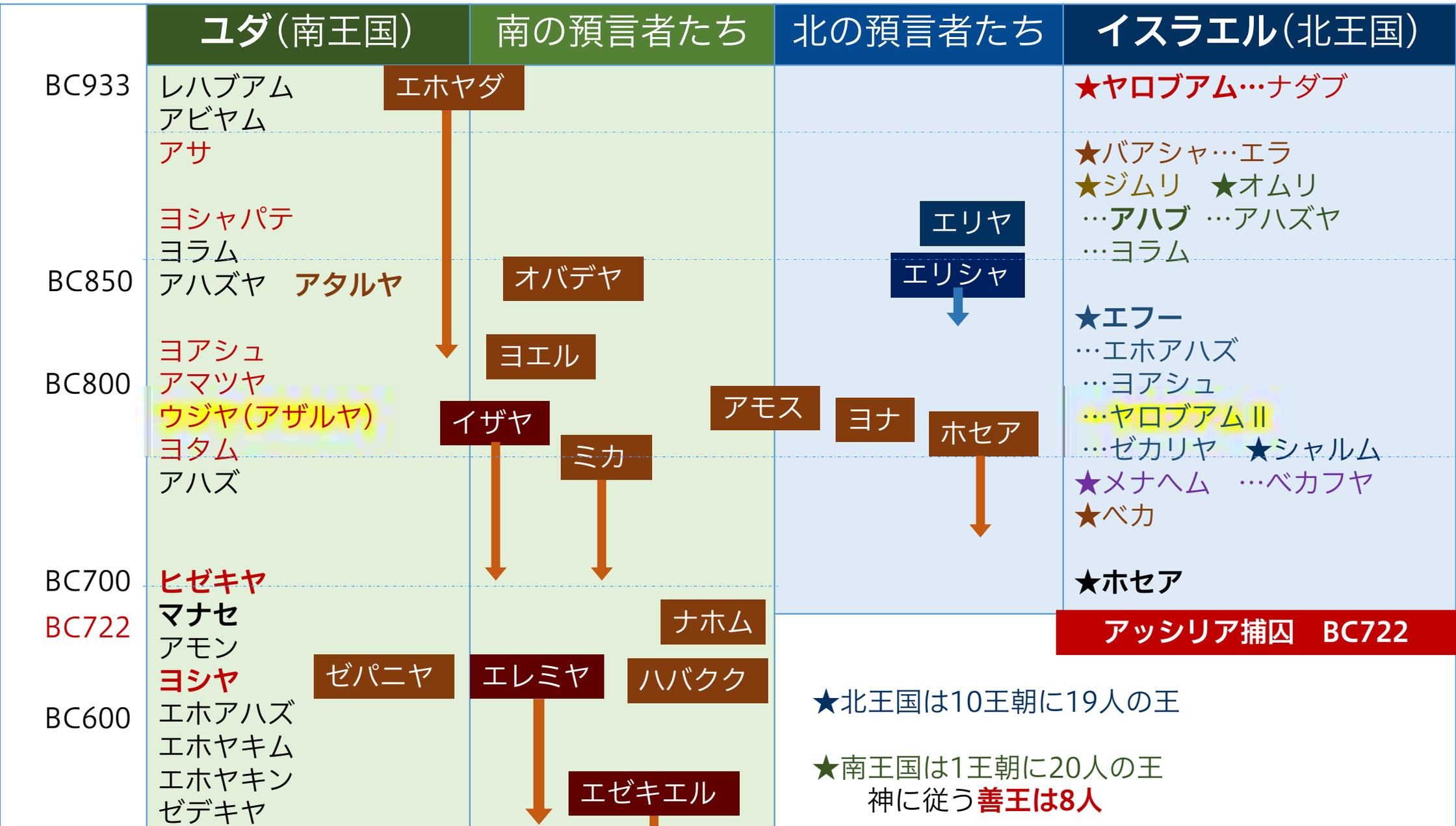


異邦人の時

列王記 (第一〜第二)

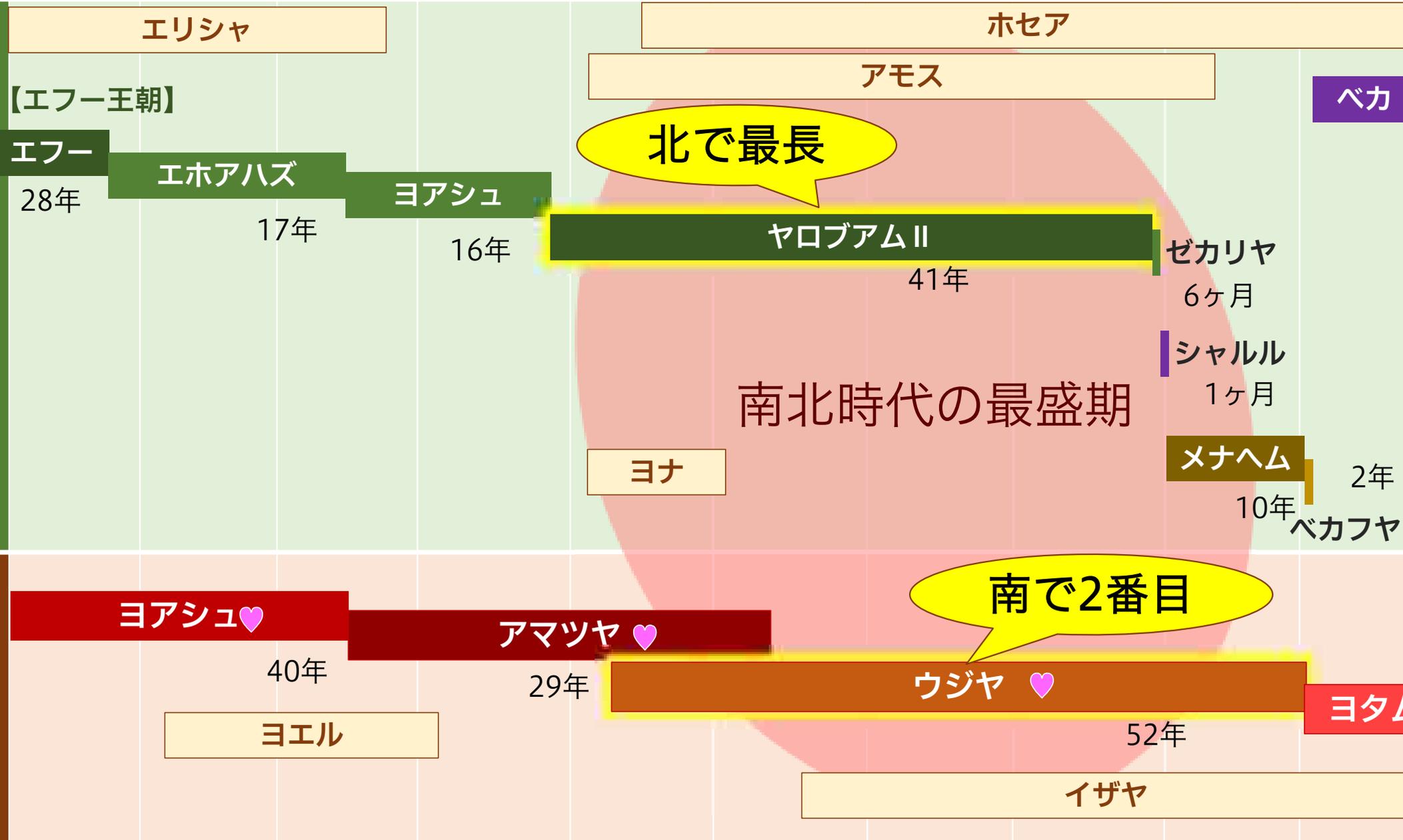
第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ (アハブ王の生涯)	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バアシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ ホセア	
	2〜13章	預言者エリシャ			
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			アッシリア捕囚 BC722
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			★北王国は10王朝に19人の王 善王はなし ★南王国は1王朝に20人の王 神に従う善王は8人

バビロン捕囚 BC586



北王国イスラエル

南王国ユダ



北で最長

南で2番目

南北時代の最盛期

【北王国イスラエルの歩み】 II 列王記

- ソロモンの偶像礼拝の罪の結果が、南北分裂。
- 北の最初の王ヤロブアムは、王国の南北に、金の子牛を築き、自ら勝手に祭司を任命した。
- 北王国の王は皆、ヤロブアムの罪の道歩んだ。アハブに至っては、バアル礼拝を国教化した。
- 最悪の時代に、エリヤ、エリシャが遣わされ、預言の通り、アハブの一族は滅ぼされた。



【南王国ユダの歩み】 II 列王記

- 神殿のあるエルサレムを都とした南王国は、神への従順と背きの間を揺れ動き続けた。
- 北王国のアハブの罪に呑み込まれ、王家全滅の危機に瀕したが、主がダビデの系譜を守られた。
- 再び盛り返した北王国と南王国は、共に黄金期を迎えつつあった。
- 一方、はるか北では、アッシリアが徐々に勢力を広げていた。



【南王国ユダの歩み】 II 列王記

- 神殿のあるエルサレムを都とした南王国は、神への従順と背きの間を揺れ動き続けた。
- 北王国のアハブの罪に呑み込まれ、王家全滅の危機に瀕したが、主がダビデの系譜を守られた。
- 再び盛り返した北王国と南王国は、共に黄金期を迎えつつあった。
- 一方、はるか北では、アッシリアが大きく勢力を広げていた。





Ⅰ. 北9代目・ヤロブアム2世 列王記Ⅱ 15章23～39節

シリア・オアシスの町

北13 ヤロブアムⅡ Ⅱ世 列Ⅱ14:23～24

ユダの王ヨアシュの子アマツヤの第十五年に、イスラエルの王ヨアシュの子ヤロブアム*が王となり、サマリアで四十年間*、王であった。

彼は【主】の目に悪であることを行い、イスラエルに罪を犯させたネバテの子ヤロブアム(1世)のすべての罪から離れなかった。

*“人々は争うこととなる” …ヤロブアムⅡ世

*北王国最長だが、記述はあっさり。

→王自身に特筆すべきことはない。

ひたすら
主の憐れみによる



北13 ヤロブアムⅡ 繁栄 列Ⅱ 14:25～26

彼は、レボ・ハマテ*からアラバの海(死海)までイスラエルの領土を回復した。それは、イスラエルの神、【主】が、そのしもべ、ガテ・ヘフェル*出身の預言者、アミタイの子ヨナ*を通して語られたことばのとおりであった。

*ガリラヤ湖の北方240km

*ナザレの隣村 *預言者ヨナ

■ ソロモン時代に匹敵する領土拡張は、
残虐な帝国アッシリアとの接触の機会にも!!



北13 ヤロブアムⅡ 憐れみ 列Ⅱ 14:26

イスラエルの苦しみが非常に激しいのを、
【主】がご覧になったからである。そこには、
奴隷も自由な者もいなくなり*、イスラエルを
助ける者もいなかった。

*究極的な窮乏による平等の実現。

➡神が約束された世界とは真逆な姿。

■アラムの王ハザエル、ベンハダド 2 世に
苦しめられ続け、疲弊しきっていた
イスラエルを、一方的に主が憐れまれた。



シリアの荒野

北13 ヤロブアムⅡ 主の約束 列Ⅱ14:27

【主】はイスラエルの名を天の下から消し去ろうとは言っておられなかった*。それで、ヨアシユの子ヤロブアムによって彼らを救われたのである。

*裁きはあっても、イスラエルの永続が主の約束。

■ エリシャが油注いだアラム王ハザエルによって、
厳しい裁きを受けたイスラエル。

→ 懲らしめは、神の愛の証しでもある。

■ なお忍耐して、イスラエルを助け続ける主。

→ 一方で、厳しい裁きの時も近づいている。



北13 ヤロブアムⅡ 王の死 列Ⅱ14:28

ヤロブアムについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が戦いであげた功績、すなわち、かつてユダのもの*であったダマスコとハマテをイスラエルに取り戻したこと、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。

ヤロブアムは、彼の先祖たち、イスラエルの王たちとともに眠り、その子ゼカリヤが代わって王となった。

*ソロモン時代のこと

■ 主の憐れみにより42年を務めたヤロブアム。

➔ 以降、北王国は、滅びの崖を転げ落ちていく。





Ⅱ. 北10代目・ウジヤ(アザルヤ) 歴Ⅱ26章(列Ⅱ15:1～7)

南10 ウジヤ 即位 歴Ⅱ26:1～2

ユダの民はみな、当時十六歳*であったウジヤ*を立てて、その父アマツヤの代わりに王とした。彼は、アマツヤが先祖とともに眠りについた後、エイラト*を築き直し、それをユダに復帰させた。

*父アマツヤが北王国の虜囚となった後に即位。

→共同統治。在位期間が12年間重なる。

*“私の力はヤハウエにある”

→別名:アザルヤ = “ヤハウエは助けられた”

*アカバ湾の最南の港町(ソロモン時代に所有)



南10 ウジヤ 52年 歴ⅡⅡ26:3~4

ウジヤは十六歳で王となり、エルサレムで五十二年間*、王であった。彼の母の名はエコルヤ*といい、エルサレム出身であった。

彼は、すべて父アマツヤが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

*統治期間52年。単独の王としては40年。

(※南王国最長は、最悪の王マナセ55年)

*“ヤハウエにはできる”

■ウジヤも善王として歩んだ。



南10 ウジヤ 預言者ゼカリヤ 歴Ⅱ26:5

神を認めることを教えたゼカリヤ*が生きていた間、彼は神を求めた。また彼が【主】を求めていた間、神は彼を栄えるようにされた。

*“ヤハウエは覚えている”

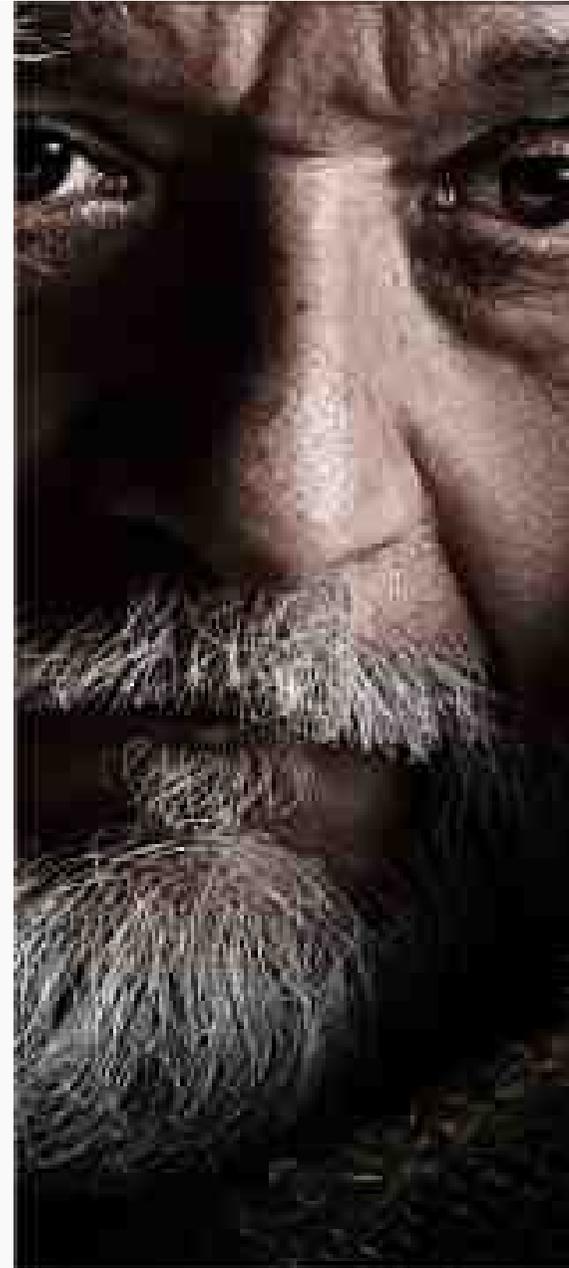
➔預言者。名前以外は不明。

■後見人のゼカリヤが、若き王ウジヤを助け導いた。

➔祖父ヨアシュにとってのエホヤダのように。

■ゼカリヤもまた、残れる信仰者(レムナント)。

主に従ったウジヤの下で王国は繁栄していく。



南10 ウジヤ ウジヤの戦い 歴Ⅱ 26:6~7

彼は出陣してペリシテ人*と戦い、ガテの城壁、ヤブネの城壁、アシュドデの城壁*を打ち壊し、アシュドデをはじめとするペリシテ人の領土に町々を建てた。神は彼を助けて、ペリシテ人、グル・バアルに住むアラビア人、メウニム人*に立ち向かわせられた。

*士師の時代、ダビデの時代以来の強力な敵。

地中海沿岸部に広がった海洋民族がルーツ。

*都市連合国家だったペリシテの主要な都市。

*南部の荒野ネゲブの遊牧民



南10 ウジヤ 貢ぎ物 歴Ⅱ 26:8～9

アンモン人はウジヤのもとに貢ぎ物を納めた。
こうして、彼の名はエジプトの境にまで届いた*。
その勢力がこの上なく強くなったからである。

ウジヤはエルサレムの隅の門、谷の門、および城壁の角の上にやぐらを建て、これを強固にした*。

*当時のエジプトとの境は、シナイ半島北部か。

→南北合わせると、ソロモン時代に匹敵。

*父アマツヤが北王国に敗北した際、北のヨアシュ王にエルサレムの城壁を破壊されていた。



南10 ウジヤ 農地開拓 歴Ⅱ26:10

彼はまた、荒野にやぐら*を建て、多くの水溜め*を掘った。シェフェラ*にも平野にも多くの家畜を持っていたからである。山地や果樹園には農夫やぶどう作りがいた。彼は農業を好んだのである。

*見張りのやぐら。作物を略奪・盗難から守る。

*雨期の間に水をためた。

*“低地” …第三版、口語、新共同訳。

→ヨルダン川沿い？ 死海沿岸部？



南10 ウジヤ 軍 歴Ⅱ 26:11~12

さらに、ウジヤには常時戦いに備える部隊*があった。それは書記エイエル*とつかさまアセヤ*によって登録された人数にしたがって各隊に配属され、王の隊長の一人ハナンヤ*の指揮下にあった。勇士である一族のかしらたちの総数は、二千六百人であった。

*常設の軍隊は、強力な国家の証し。

*“ヤハウエは一掃される” * “ヤハウエの仕事”

* “神は美しい方”



南10 ウジヤ 強力な部隊 歴Ⅱ26:13

その指揮下には三十万七千五百人の軍勢*があり、王を助けて敵に当たる強力な部隊であった。ウジヤは、その全軍のために、盾、槍、かぶと、よろい、弓、および投石器用の石を用意した。

*常設軍30万は、
歴代でも最強レベル。



南10 ウジヤ 兵器 歴Ⅱ26:15

さらに彼はエルサレムで、巧みに考案された兵器を作り、矢や大石を放つために、やぐらの上や城壁の角の上に据えた。こうして、彼の名声は遠くにまで広まった。彼が驚くべき助けを得て*、強くなったからである。

*主なる神の驚くべき助け

■世間的には、優れた兵器開発で名を馳せた。



南10 ウジヤ 2人のアザルヤ 歴Ⅱ 26:16~17

しかし、彼が強くなると、その心は高ぶり、ついに身に滅びを招いた。彼は自分の神、【主】の信頼を裏切った。香の壇の上で香をたこうとして【主】の神殿に入ったのである。

すると、彼の後から祭司アザルヤ*が、【主】に仕える八十人の勇敢な祭司たちとともに*入って来た。

*“ヤハウエは助けられた” ウジヤの別名も同じ。

*ウジヤは屈強な兵士たちを引き連れていただろう。

■ 歴代誌は、王と祭司、2人のアザルヤを区別。

→主に背いたアザルヤ。従い通したアザルヤ。



南10 ウジヤ 祭司の警告 歴Ⅱ26:18

彼らはウジヤ王の前に立ちふさがって言った。「ウジヤよ。【主】に香をたくのはあなたのすることではありません。香をたくのは、聖別された祭司たち、アロンの子ら*のすることです。聖所から出てください。あなたは主の信頼を裏切りました。あなたには、神である【主】の誉れは与えられません。」

*祭司の務めは、アロンの子孫のみ許可された。

■サウル王は、祭司の領域を侵し王権を剥奪。同様の罪を犯し、祝福をとられたウジヤ王。



南10 ウジヤ 怒るウジヤ 歴Ⅱ26:19～20

ウジヤは激しく怒った。香をたくための香炉を手にしていたが、彼が祭司たちに対して激しく怒ったとき、【主】の神殿の中にいた祭司たちの前、香の壇の傍らで、彼の額にツアラアトが現れた。

祭司の長アザルヤと祭司たち全員が彼の方を見ると、なんと、彼の額がツアラアトに冒されていた。そこで彼らは、**急いで彼をそこから連れ出した***。彼自身も急いで出て行った。【主】が彼を打たれたからである。

***ツアラアトでけがれた身で神殿にはいられない。**



南10 ウジヤ 隔離の日々 歴 II 26:21

ウジヤ王は死ぬ日までツアラアトに冒され*、ツアラアトに冒された者として隔離された家に住んだ。彼が【主】の宮から断たれた*からである。その子ヨタム*が王宮を管理し、民衆をさばいた。

*生涯続いた報い。祝福に相当する責任の重さ。

*主との交わりの場(神殿)から除外された。

*“ヤハウエは完全”

■神殿に出入りできない者に国は裁けない。

ヨタムが即位し、共同統治(14年間)という形に。



南10 ウジヤ イザヤの記録 歴Ⅱ 26:22

ウジヤについてのその他の事柄は、最初から最後まで、アモツの子、預言者イザヤ*が書き記した。

*“ヤハウエは救われた”

ウジヤーヨタムーアハズーヒゼキヤーマナセ
5人の王の時代に預言者として活躍。

→北王国が滅亡、南王国の滅亡が決定する時代。

1つの時代の終わりを告げるイザヤの登場。



南10 ウジヤ 死 歴Ⅱ 26:23

ウジヤは彼の先祖とともに眠りについた。人々は彼を王たちの墓地の野*に先祖とともに葬った。彼がツァラアトに冒された者だと言われていたからである。彼の子ヨタムが代わって王となった。

*“王たちの墓の近くの野”

汚れのため、歴代の王墓から離された。





Ⅲ. まとめと適用

この道はいつか来た道？
繰り返される罪を断とう

エルサレム近郊の山々

善王の生涯で繰り返されるパターン

- 歴代の南王国に現れる、善王と呼ばれる王たち。
しかし、過ちや罪を犯すことなく生涯を全うした者はいない。
ヨアシュー・アマツヤ・ウジヤは、共に晩年に大きな罪を犯した。

① 主に従い、祝福され、繁栄する。

② 傲慢に陥り、罪を犯す。

例) 偶像礼拝。祭司の聖職を侵す。

③ 祝福を失い、裁きを受ける。

例) 敵の侵略、敗北。虜囚。謀反による死。ツアラアト。

繰り返される単調さこそ罪の本質だと知ろう

- 既視感に満ちた南北時代の単調さはまさに、罪の重さを示すもの。罪とは代わり映えなく、単調で、性懲りもなく繰り返されるもの。
- 罪に陥った人の生涯は単調で、特筆すべきこともない。経済的繁栄を極めた北王国のヤロブアムⅡ世の記述の薄っぺらさ。
- 誰もが持っている、はまりがちな罪のパターンは、罪の性質の現れ。罪の奴隷の生活は、単調で退屈で苦痛なだけ。王たちを反面教師に、痛みを避けて、学び取ろう。

私が繰り返している罪のパターンは、どういうことだろうか？

罪の奴隷の単調さから逃れ出るために

- 私の内には、もともと罪しかないのだから、自分ばかり見ていれば、誰だって苦しくなるばかり。
- 内住される聖霊が働かれるのは、主の御顔を見上げる時だ。聖書に心傾け、全身全霊で聴きとる時に、聖霊が働いてくださる。
- “聞き従う” 聞くことと行動は常にセットで求められる。主の御言葉を信頼し、具体的な行動を起こすとき、味わわされていく、キリスト者の自由がある。

自由をもたらす神の真理の上に、信仰生活を重ねていこう!!

■ ヨハネ福音書8:31～34 ■

8:31 イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。

8:32 あなたがたは**真理**を知り、**真理**はあなたがたを**自由**にします。」

8:33 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、今までだれの奴隷になったこともありません。どうして、『あなたがたは**自由**になる』と言われるのですか。」

8:34 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。」

真理と自由の道の第一歩

- 人間が考え出した言い伝え・口伝律法にがんじがらめだった当時。しかし、ユダヤ人たちに、罪の奴隷という自覚はなかった。
→ 奴隷という自覚もないのが、**霊的な罪の奴隷**である証拠。
- 解放は、創造主の立てられた計画、その中心である**メシア**にある。イエスの言葉にとどまるとは、**主イエスの言葉**に生きること。実体を伴う本当の信仰だけが、私に真実の自由を与えてくれる。
- 啓示された**神の計画の全容**を確かに理解し、信頼しているだろうか。

御言葉の学びなしには、何も始まりようがない。

罪の奴隷の単調さから逃れ出るために

- 私たち人間は、生まれながらに罪の奴隷となっている。
偶像礼拝とは、人が造った虚構をなぞるだけの虚しい疑似体験。
例) どれも同じに見える世の物語。単調な繰り返しのゲーム…。
- 罪に生きれば、私たちの生涯はますます単調になっていく。
神なき世界に人を閉じ込めれば、退屈と暴力がすべてを支配する。
- 罪の牢獄から抜け出る道は、真実の創造主を信じる道にある。
創造的な生涯は、創造主への信頼によってのみ築き上げられる。

主を信じ、信頼し続けて、創造的な人生へ歩み出そう!!

★ 創造的な信仰生涯を味わい知っていくために ★

- 福音を信じて救われ、永遠の命を得た。だからといって、天国行きの切符を握りしめているだけでは、日々は何も変わらない。信仰は停滞し、救いの確信すら曖昧になっていくだろう。
- タラントン、ミナのたとえにあるように、信仰とは投資だと知ろう。使徒は次の町を目指し、パウロの目はスペインまで向けられていた。
- あなたは、次の一步をどこに踏み出すように命じられている？
踏み出し、投資し続けるなら、驚くような信仰の冒険が待っている。

福音宣教のために踏み出す一步が、創造的な信仰生涯の原動力だ

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

単調で退屈な、不安とごまかしの日々から、私は解放されました。

驚くような信仰の冒険の道を、あなたが用意してくださっています。

私は、主に聞き従い、真理と自由の道を歩みます。

恵みの福音をたずさえて、創造的な信仰生涯に押し出してください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」